

B-VIII-2

交通事故頭部外傷による遷延性意識障害に対する鍼治療の試み

¹ 木沢記念病院・中部療護センター脳神経外科、² 中部療護センター看護部、

³ 中部療護センター臨床検査課

○鈴木雅雄¹、松本 淳¹、八十川雄図¹、岡 直樹¹、西山紀郎³、加藤貴之¹、遠山香織²、奥村 歩¹、篠田 淳¹

【はじめに】当センターでは五感療法の一環として遷延性意識障害に対して、鍼治療を実施している。今回はこれまで鍼治療実施してきた本障害患者 11 例を対象にその効果について検討した。

【方法】対象患者は、家族の同意が得られた 11 例であった。鍼治療開始前に評価した、Glasgow Coma Scale(GCS)では 6.7 ± 1.6 、中部療護センタースケールでは 68.7 ± 6.7 といずれの評価においても障害の程度は高度であった。鍼治療方法：意識障害に効果があるとされる経穴(ツボ)を選択し、鍼治療は週 2 日、1 日 1 回の頻度で行い、3 ヶ月間継続するプログラムを実施した。評価：鍼治療開始時と終了時に以下の項目を評価した。①中部療護センタースケール、②鍼治療中の脳波検査。

【結果】鍼治療期間前後における各評価の変化は、①中部療護センタースケール： 68.7 ± 6.7 から 65.3 ± 8.0 ($p=0.017$, CI:0.78-6.13)と軽度の改善が認められた。②鍼治療中の脳波検査では、開始時は鍼刺激に対して大きな変化は認められなかったが、終了時には鍼刺激に呼応して θ 波から α 波への速波化が認められた。

【考察】今回、本障害患者 11 例に対して 3 ヶ月間の継続的な鍼治療を行った結果、臨床症状の改善にともない、脳波においても速波化が観察された。このことは、少なからず鍼刺激において大脳皮質が活性化されたものと推察され、本障害における意識改善の一助となる可能性が考えられた。